衝口発

210.3
To339s
W
Ⅲ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』 請求記号 210.3-To339s-Ⅲ

ガラス使用

210.3-
To339s
Ⅲ

國立國會圖書館藏書

國立國會圖書館藏書

第四卷 中山傳春

蘇叔藏と云るものこゝ佛光寺坊中中ノ坊久遠院と云寺院家
坊一子なり母ハ岡野と云る妾まてゝ
あり父の師死して後叔藏壮年ま
長ぢるとゝゆゑく不用意
放蕩三昧まて剰海よ

國立國會圖書館
24.9.5
25546

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

国立国会図書館蔵書

蘇叔藏と云ふ人ハ佛光寺の中ノ坊久遠院と云ふ院家
の一子なり母ハ岡野と云ふ妾まで其志の嫡
あり父の師死して後叔藏壮年の時より母ハ祖母と共に本家
長上おいうへとゆゆしく不用放蕩三昧まで剰へ
寺をも出てくらせり彼宗旨おひ
そ血脈とゐて肉親のみ後住と云ふ
犯族熊谷なども集り方く説求めいろ〳〵と理解と説け
ど一向耳もかたむけず只おのが侭の振舞もなよせひなくて
のるをいとめんとも出もんなとめんせひなくて
ふりて後住とゐる則おのれ
後住となりおのれ壮年の時よりの
坊ハ廃て住ゐて寛文の
住ゐる物語を聞くに叔藏が
まて叔藏ハ勿論ぬ今ハ僧と業とて
彼是物語るうちも其時代の
ほうて面会せり」が
谷堅吉衛口業と云る書を初ハ
芸ふせるなりとゐふとめ
ぬぎ〳〵ぞの後書けり
たくひなりとのこと壮年
果てかる事を書て人を
却て叔藏が僧を業とゐるところ
い〳〵講〳〵きやらんとあり

中島廣行筆

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ　　ガラス使用

引證書目

古本日本紀標注及隱義　古事記　續日本紀
日本紀畧　水鏡　日本紀　釋日本紀
令　姓氏録　延喜式　禁中御抄
年中行夏秘抄　或記　懐風藻　續古今和歌集
内宴記　古樂書 二種　續教訓抄　宗藤朝臣記
平家物語　源氏物語　延暦中鮮文
細川幽斎詰書笛 記者不知　大和名所記 記者不知 鈔本
琉球島圖　春日権現驗記　敷福寺縁起
史記　前漢書　後漢書　魏志　晋書

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

隋書　三國史記　東國通鑑　事物紀原

二才圖會

衝口發

本邦上古之世ヲ天神七代地神五代ト名テ國史以下ノ書ニ神代伝神武紀ニ此間ヲ一百七十九萬二千四百七十餘歳トス此年數固ヨリ論スルニタラス天神七代ハ其名ノミニメ人體ナシ地神五代ノ始ハ西土西漢ノ時ニアタル其說如何トナレハ辰韓ハ秦ノ亡人韓東國通鑑云辰韓在馬避役入韓々割東界以与之立城柵言語有類秦人韓之東自言秦之亡人或謂之秦韓常用馬韓人作主雖世々相兼而不得自立明其流移之人常制於馬韓地宜五穀俗饒蠶桑善作縑布乘駕牛馬嫁娶礼俗男女有別行者相逢皆駐ニメ素戔雄尊ハ辰韓ノ主也姓氏録右京皇別新良貴

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊男稻飯命之後也是出於新良國王稻飯命出新羅國王者祖合日本紀不見○東國通鑑引新羅本史云其君称居西干者一居西干辰言王或云呼貴人之称也次々雄或云慈充方言巫蓋神而敬畏之称也挨次々雄ハ即素戔雄也古音相通ス然ハ則新羅ノ君長タル┐明白也神武帝ノ辛酉元年ハ周惠王十七年ニアツ周惠王ノ時何ソ辰馬ノ二韓アラムヤ五代ノ間ノ年數知ベカラズトイヘ𪜈大已貴命ハ素戔雄尊ノ子ニメ其子事代主命ノ女姫蹈鞴五十鈴姫命神武帝ノ后ナレバ其大概察スベシ竊按ニ神武帝元年辛酉ハ後漢宣帝神爵二年辛酉ニメ崇神帝壯八年辛酉ナラン然レハ周惠王十七年辛酉ヨリハ六百年後也此ノ如ク六百年減セサレハ三國ノ年紀符合セス如此新キ┐故史記ニモ朝鮮傳ハアレ𪜈日本傳ハナシ漢書ニモナシ

皇統

或記云神武天皇御母ハ王依姫菁不合尊ノ御子ニハ𪜈シテサス御年モ菁不合尊ヨリハ長シ王ヘリ其先ハ呉ノ泰伯ノ苗裔ヨリ出サセ王フ中略後ニ［　］リ南海ヲ凌キ大倭國ニ饒速日命長［　］都ヲ開王ヘリサレハ後ノ世ニ我邦ハ太伯ノ末ト云又周ハ姫姓ナレハトテ姫氏國ノ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

名モアリ（中略）然ル神武天皇御末ハ仲哀天皇ニテ盡サセ玉フ（下略）按年中行事秘抄等ニ載ル説モ何トヤラム事有ゲナリ此等ノ説ハ皆本拠アリシナトニユ又呉ヘハ後々ニデモ通ジヌ此モ一證トスヘキ欤但神武帝渕斎仲哀帝ニ盡伝應神帝ハ何ノヨリ出サセ玉フヤ胎中天皇イロ〳〵疑シク思ハル、也又按ニ神武帝ヨリ仲哀帝至リ上加茂ニ祭ラレ座神帝ヨリハ其端改リテ八幡ニ祭ラルヽ返ニイフカシ○神武帝ノ御事右ノ如クニ其勃與シ玉フ地名蠶魚ニ破ラレ書ノ考

ベキナシ按ニ御母玉依姫海宮豊玉彦ノ女ニメ豊玉姫ノ妹也塩土老翁ノ計ヒニテ彦火々出見尊ヲ海宮ニ移シカヽス内豊玉姫ヲ娶テ暫不合尊生レ玉ヘリ此海宮伝ハ琉球ノ恵平也島ヲ云恵平也或恵平屋ニ作ル廣輿図及使琉球録所謂墾壁山閩書及傳信録葉壁山ニ作ル又傳信録作伊平屋島續文献通考所謂琉球北山恵平也島ハ天見島日本紀ニ又阿麻美奄美ニ作リ続日本紀ニ奄美ニ作ル嶋ノ東北ニ山アリコレヲ天孫嶽ト云土人云此山上古神人ノ降臨ノ地故ニ島ノ名トスト神人ノ降臨伝ハ則彦火々出見尊ノ渕事ニテ日本紀ホ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

ニ天孫ト称ス此ニ依テ天孫嶽阿麻美島等ノ名
アリサレハ王依姫ハ此島ノ豊王彦ノ女ニメ太
伯ノ裔此嶋ニ渡リ王依姫ヲ娶テ神武帝生レ王
ヒ神武帝ハ即此島ニメ倭國等ノ事ヲ知シメシ
勃興シ王フナラン因テ拵ニ太伯季歴ニ避テ勾
吳ニユキ断髪文身以テ蛟龍子ニ象リ蛟龍ノ患ヲ
避ト此スナハチ太伯ニ始ニアラス吳越ノ古俗
也三才図會云有大琉球小琉球各出名王異寶其
國福建泉州東其人深目長鼻頗類婦人男子去鬚
黥干手以羽毛為冠莊以珠玉女人以墨黥首為龍
蛇文皆紵繩纏髪以白布罪羅紋為帽維毛為衣ト其
古俗ヲ記ス右ノ如ク黥龍蛇ノ文ヲナス勾吳ノ
俗ニ同ケレハ勾吳ノ人琉球ニ入テウフル風俗
ナルヿ知ヘシ日本変釋ニヨレハ本邦モト文身
ノ國ナレハ神武帝東征ノ後其人入来テ其俗ノ
ウツルモノナラム 恵平也島中山ノ西北三十里周廻二十六町
景行紀二十七年二月武内宿祢自東國還ニ十五年
七月遣武内宿祢令察北陸及東方諸國之地形
見國其國人男女並推結文身為人勇悍是総日
蝦東亦土地沃壌而曠撃可取也推結文身後世

25546

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

文身ヲ止メラレシヨリ書タル文ナリ古来ハ
皆文身也変釋及後漢書ホニ考テシルヘシ文
身ノ俗蝦夷ニノミ残リタル也

言語

本邦ノ言語音訓共ニ異邦ヨリ移リ来者也和訓
ニハ種々ノ説アレド十ニ八九ハ上古ノ韓音韓
語或ハ西土ノ音ノ轉スル者也

伊弉諾　伊弉冊　古本日本紀傍註云伊弉神代
王之称諾男也冊女也（按伊弉疑韓古語居西干ニメ
遠之訛ト音通ナラム諾及冊
韓古音）

素戔雄　新羅本史所謂次ク雄也次ク雄或作慈
充方言巫盖神而敬畏之称也

忍穂耳　古本日本紀假名ヲシホニ　新羅本史所謂居西干
瓊々杵　新羅本史所謂尼師今
大己貴　韓斯謂臣智言諸邑渠帥
神籬　古本日本紀隠義云神籬新羅語也（説見祭祀条）
右ノ外姓氏ノ条ニ一二ヲ記ス

千座置戸　古本日本紀隠義云新羅古語刑之名也
天アマ　陰ホト　陽ヲ、　河カワ　島セマ　殿トノ　屋ア
娘テウ　人シヌ　ツヌト　男ナギ　女ニヤミ
子コ　孫マゴ　熊クマ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

鐘シク 上カモ 下シモ 内ソク 外トツ 大ヲヽ 小コツ

寢子 越コツ 川ツ 止ト 墓ハカ 豈アニ 郡コホル

右韓音諸書ニ散在スル者今其一二ヲ記ス

地 蠏 蜂 蝉 蛍 菊 死 推

右西土ノ音ノ一、和訓トスル者

花ハナ 魚ウヲ 瓦カハラ 土器カハラケ 郭公ホトヽギス 猿マシラ

乳母ウバ 皿サラ

右ノ類ハ竺語也

古昔秦人及呉人入来レ故其音傳リ秦人ノ言語韓ニ一変シ又此邦ニ一変シ今此ヲ求ルニ和訓ニ混ノ分別シカタシ呉音ハ和語ニ混セサレハ明白ニ此邦ノ音トナリ漢呉二音相混セス並ヒ行ル漢音ノ始何世ノ事ナルヲシラス察スルニ遣唐使ノ道ヒラケテヨリノコトナラム又對馬音アリ其由来種々ノ説アレ氏信用シカタシ呉音伝ハ勿論非也固ヨリ韓ノ古音ニモアラス給ヲコウ大ヲテヱノ類也○按ニ蝦夷夫ホク婦ヲメ○按ニハツノ一轉ナラム老ル風ルウ此皆韓ノ古音ヨリ轉ル者

姓氏

國朝諸姓其元三韓ノ官名及其言語ニ出ルモノ

多之此亦上古此邦ニテモ韓ノ官職ヲ用ルノ一
證トスヘシ天智帝御宇唐風ヲ以韓制ヲ止メ
玉ヒテ其事傳ラス天武帝御宇萬姓ヲ改メ混シ
玉シ片文字ヲカヘラレ今ノ如クナリタリトミユ今
諸書ニ散見スルモノ一二ヲ挙ク尚博古ノ和学
者ニ問ルヘシ○後漢書辰韓傳云諸小別邑各有
渠帥大者名臣智次有儉側次有樊秖秖或作濊次有殺
奚次有邑借皆其官名○三國史紀東國通鑑同之

臣智（ヲミチ）　朝臣見下文

險側（ケンソク）

縣主（アカタヌシ）

樊秖（ハンテイ）

殺奚（サイケイ）

邑借（ユフシャク）

朝臣

臣也

宿祢

宿祢之義取於少兄也

○衝口發

儉側（ケンソク）

縣主（ケンシュ）

樊秖（ハンテイ）

殺奚（サイケイ）

邑借（ユフシャク）

朝臣

臣也

宿祢

宿祢之義取於少兄也

阿直伎（アタイ）

佐伯（サヘキ）

連（ムラジ）

○幹拙ニ元臣智ヨリ来ル者訓ハ吾ニ隨ヒソ
フノ意ナレ𪜈文字ハ朝ニ在テ親ニ朝臣トイヒ疎
ニ臣伝

釈云帝王相親之詞也言我身隨添之

日本紀景行五十一年有者國佐伯可以為
一證

釈云昔称皇子為大兄又称近臣為少兄

按ニ隋書高麗傳云其官
有大々兄次大兄次小兄

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

又釈云或說帝王相親云曽古尓祢与ヽ
真人（マヒト）　辰韓所謂麻立干（マタウ）也麻立干ハ新羅ノ王
号ナルヲ以本邦皇別ノ姓トス
首　韓語ノヲビト也　私記云於比止
造　御奴
史　文人
村主及忌寸未考

國號

日本ノ號西土ノ書ニ考ルニ唐以前ノ書ニ見アタラス

日本

按ニ東國通鑑新羅文武王十一年八月倭國更号
日本自言近日所出以為名文武王十一年ハ天智
帝九年ニメ當ル日本紀ヲ始
メ上古日本ノ字ヲ用ルハ皆追記ナルヿ知ヘシ○倭
大倭大和養徳皆ヤマト、訓ス大ノ字ヲ加テオ、ヤマト
ト云ハ大ハ美称ノミ別ニ意義ナシ又ヤマトノ訓種
種ノ説アレ𪜈信シカタシ養徳ト書シヨリ考レハヤ
マトハ倭奴ノ轉語ナルヿ必セリ又此國ノ惣名ヲヤ
マトヽ云ハ元ハ一國ノ名ナレ𪜈神武帝以來歴世都
スル國ナレハソレカヒロカリテ全体ノ名ニナリタル也

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

後ニ大和日本ト字ヲカヘテ大和ハ一國ノ名日本
ハ六十余國ノ惣名トスルモノヘ木アルヲ以木ノ
國火アリ以火國ノ類ハ古カルヘシ其餘國号古書ニ
ヱヲタルハ後世名ケテ追記シタルモノヘ始ヨリ此
名アルニアラス
按伊弉冉（イサナ）尊　忍穂（ヲシホ）　共居西干ノ轉スルモノ也伊勢又
同ク居西干ノ摠語ナル日本紀ニ伊脊ト書タル
ニテモ知ヘシサレハ伊勢ハ天照太神ノ御國伝フニ
テ礒邉モ居西干邉ナラム

神璽

國朝神璽ト称スルニ三アリ一ハ禁中御抄ニヽヱタル
神璽一ハ神祇令古語拾遺等ニ所謂鏡劔ヲサシテ
云美称一ハ公式令ノ天子神璽本注云謂践祚之
日壽璽（ヨコトノミシルシ）寶而不用内印方三寸此神璽ハ印章ヲ指テ云ヘ
諸司ノ印ニテノ制ヲ載テ灼
按日本紀　允恭　帝　元年璽符ヽヽ継體元年天子鏡劔璽
符ヽヽ舒明元年天皇之璽印ヽヽ孝徳元年授璽綬
禅位ヽヽ璽符璽印璽綬皆印章ナルヿ明白也異邦ノ
文字ヲ假リテ書タルモノトイヘ𪜈此名目應神帝以
前ハナシ疑ハ此即公式令ニ所謂寶而不用所ノ印

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

異年号

墾ナルコトシルヘシ

年號

年號大寶ヲ始トス此ヨリ前孝徳帝大化（孝徳帝ノ時始テ唐礼ヲ用ルノハシヒラケタリ年号ハ西土ノコトナレハ古代ノ年号ヲ皆ケツリテ大化ヲ始トスルナリ）天武帝ノ白鳳アレド連綿セサル故ニ大宝ヲ始トス伝按此ノ大化白雉等ノ外ニ俗ニ異年號ト覺タル年号アリ聖武帝ノ列滴○應神帝ノ璽至○武烈帝ノ善紀四年正和五年定居七年○継体帝ノ殷到（按続教訓抄継体帝即位廿五年辛亥ヲ以教到元年トシ宣和帝ノ即位丙辰ヲ教到六年ニシテ安閑帝ノ号トス）○宣化帝僧聽四年○欽明帝師安一年大長三年法靖四年○靖（一作清）兄弟

一年明要三年蔵和一年（一作知）知僧一年貴樂十八年○貴（一作遺）金光六年○敏達帝賢棲五年（一作傳）鏡常四年○鏡（一作鍾）勝照四年○用明帝和重二年崇峻帝端政五年○推古帝喜樂瑞正始哭各一年法興七年（吉貴非是）願轉四年光元六年○光（一作弘）和京五年○一作和景）仁王六年節中五年○用明帝聖聽三年○一（作聖徳）僧要五年○（一作安）命長五年○一（作長命）○天智帝中元四年○戊辰為元年（然則六年壬申可係大友天皇）○天武帝白鳳四年朱雀四年○持統帝大和四年○文武帝大長三年○戊戌為元年此號其義解スヘカラサルモノ多シ竊按ニ應神帝璽至ノ号ハ神功皇后攝政四十年庚申

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

魏正始元年 魏親魏倭王ノ印ヲ贈ル若ケ様ノコニ依テ号クル乎伊豫道後湯碑云法興六年推古即位四年丙辰ヲ元年トス此年法興寺落成ス此ヲ以名ツクルナラン白鳳朱雀続日本紀朱雀ハ水鏡ニモアリ金光ハ平家物語大長延暦中ノ解文ニ出ル等ノ歟修史ノ日削テ載ズ

容飾

上世文身黒歯被髪ス後漢書倭人傳男子皆黥面文身以其文左右大小別尊卑之差○三韓傳馬韓其南界近倭亦有文身者○日本支釈云元文身垂髪黒歯也○按階書日本傳令結髪止黒歯也近江朝天下庶人文身ノ事ナシ此ヲ止ルノ旧タリ 蝦東俗今猶然リ此即上古ノ遺風ナリ先王世々夏ヲ以夷ヲ変ヒ玉フ文身何ノ時ニ禁ズルヤ未詳セラレシヲシラス履中紀ニヨレハ應神仁徳ノ朝ニ止メラレシナラン黒歯ハ近江朝庭トハメラレシト也変釈ニハ已タリ被髪日本紀天武十一年禁セラレシトアリ推古帝御宇冠位ヲ定ム官階アル人ハ此時ヨリ束髪セシナラム変釋ニヨレハ此モ近江朝ニ止メラレシトナリ然レハ天智帝カ大友皇子ノ制ナルヘシ仍テ日本紀ニハ天武帝ノ制トスルナラム四十已上ノ婦ハ髪ノ結不結其意ニ任セ巫祝ノ類結髪ノ例ニアラス伝ハ察スルニ

天武帝ノ制ナルヘシ其後慶雲二年十二月ニ再
ヒ詔制アリテイヨ〳〵止メラレ神祇ノ事ニアツカル人
ノミ被髪セシメ相混セサラシメラル一快事ナラス
ヤ結髪ノ体古画ニ散在ス其後男女復歯ヲ染メ
婦女被髪ス何ノ時ニ始ルコトヲシラス竊按ニ弘仁
以後ノ制ナルコト必セリ
貴族ノ男子元服ノ日ヨリ女子貴賤トナク婦ヲ
許メ黒歯セシメ童男及ヒ婦女少長トナク被
髪セシメ俗云スベラカシ サケカミノ類 貴族ノ男子元服十八歳ニ
至リ婦女貴賤トナク十三歳已上眉ヲ剃テ墨ヲ

以テ眉ヲヒク何レノ代ニ始ルコトヲシラス又ヒニブク
ヨナス固ヨリ皆夷俗ナリ ○男子頂ヲ剃リ髪
ヲ後ニ束ヌ後世ノ俗此ヲ元服伝蒙古韃靼ノ
開剃ト一間ノミ然ルニスステニ 春日権現験記 西坪預隆 筆画
ニ見タレハ六百年前ヨリモ有シコトナラム固ヨリ
武夫ノコトニテ文人ハシカラス今ノ婦女髪ヲ束ル其
形大ニ異同アレ共唐朝ノ遺風ナリ中古被髪ヲ禁
メ結束セシムル体ニ天淵ナラス大ニ愛スヘシ後世
ノ俗ニアラス

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

衣服

上古衣服タヾ千早アルノミ日本紀ニ神代ヨリ衣裳ノ下アルハ固ヨリ異邦ノ服ノミ千早ノ製一條ノ布ヲ用ヒヲ著スル其一條横幅ノ中間ヲ裂テ頭ヲ出シ其両端ヲ以結束スト日本変釋ニ中衣伝是ナリ小野ノ妹子入隋ニモ此ヲ著シ行シトニヨリ後西土ニ倣テ服ヲ製メ巫祝ノミ此ヲ服上ニ加フ又巫祝ニアラストイヘ尼神会葬送等ニハ故事ヲ存メ卑賤ニハ此ヲ服上ニ加ヘシム是巫祝ヲメ黒歯被髪セシムルカ如シ　按三國志已人倭人傳ニ千早ノ外ニ又別ニ婦女ノ服アリ其制今知ヘカラス疑ラクハ筑後磐井造ル所ノ古人ノ服ノ類ナラン

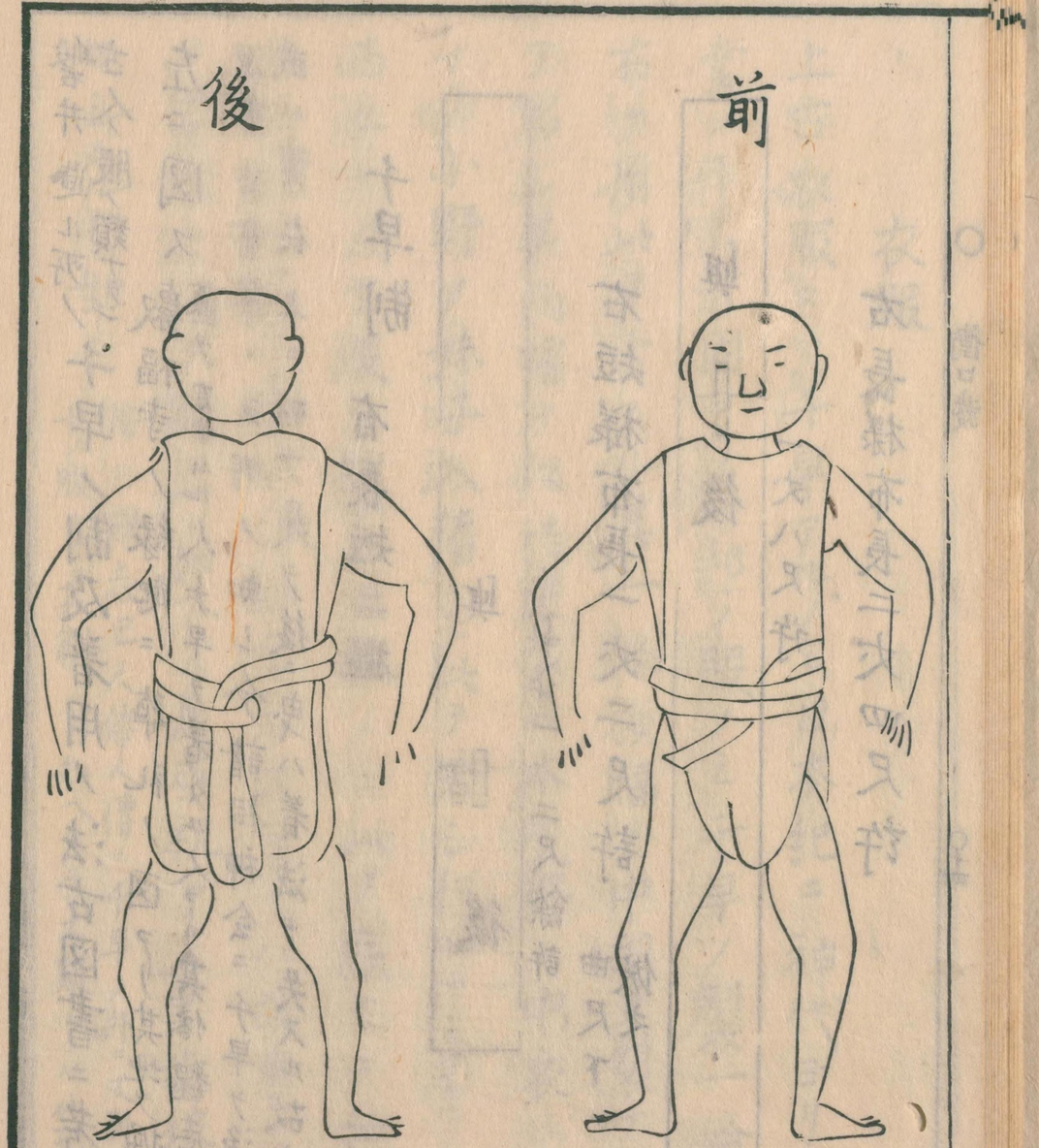
千早制

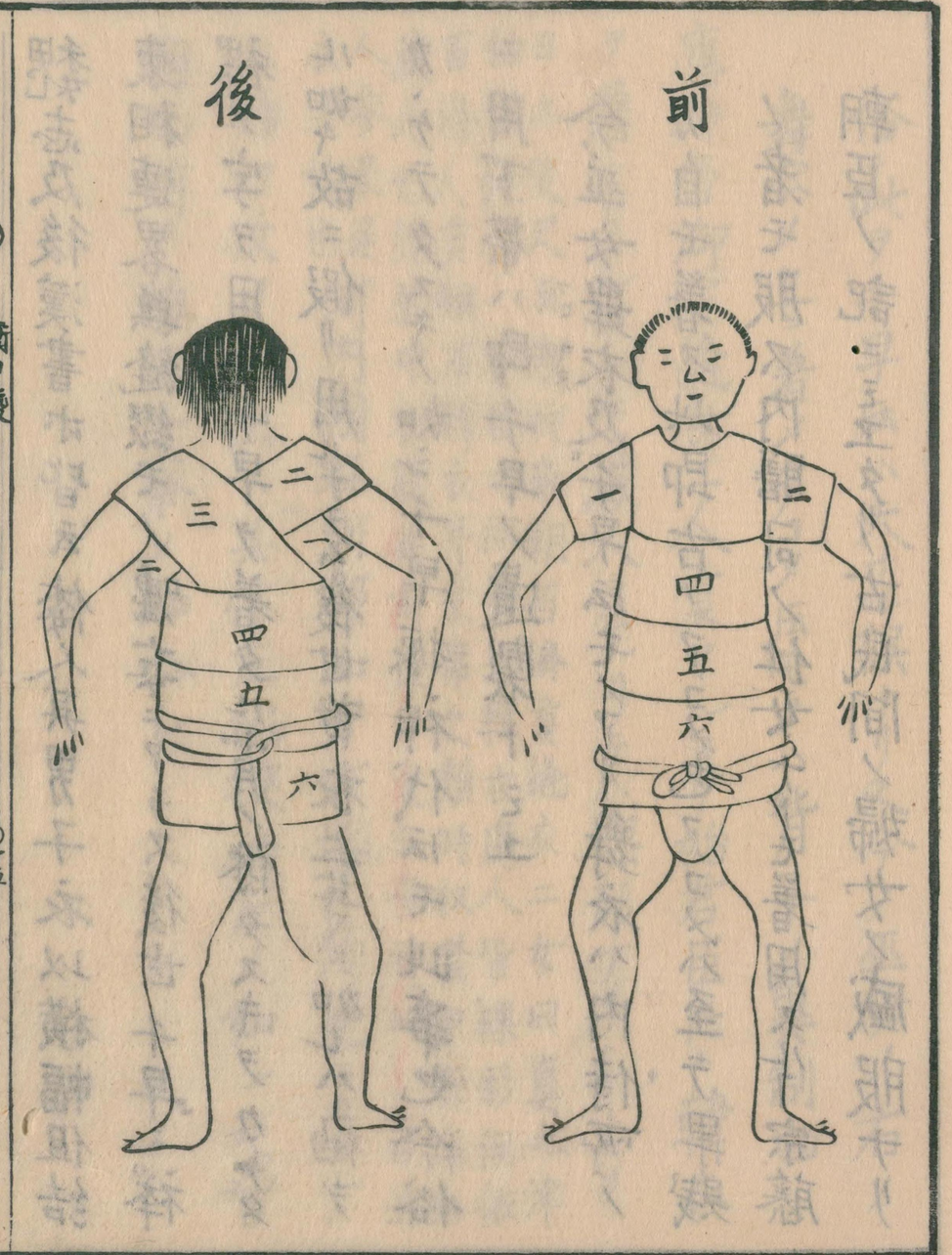
有長短二様

右短様布長一丈二尺許

右長様布長二丈四尺許

千早ノ制及著用ノ法古図書ニ考テ左ニ図ス　敷福寺ノ縁起ニ葬礼ノ図アリ其地ヲ掘又墓ヲオサムル人千早ヲ著タル人アリ其体裁志後漢書晋書等ニ云所ノ如シ今諸祠神会ニ千早ヲ浄衣或ハ黄衣上ニ加テ是ヲ後ニ曳ハ着法ヲ失スル故ナリ



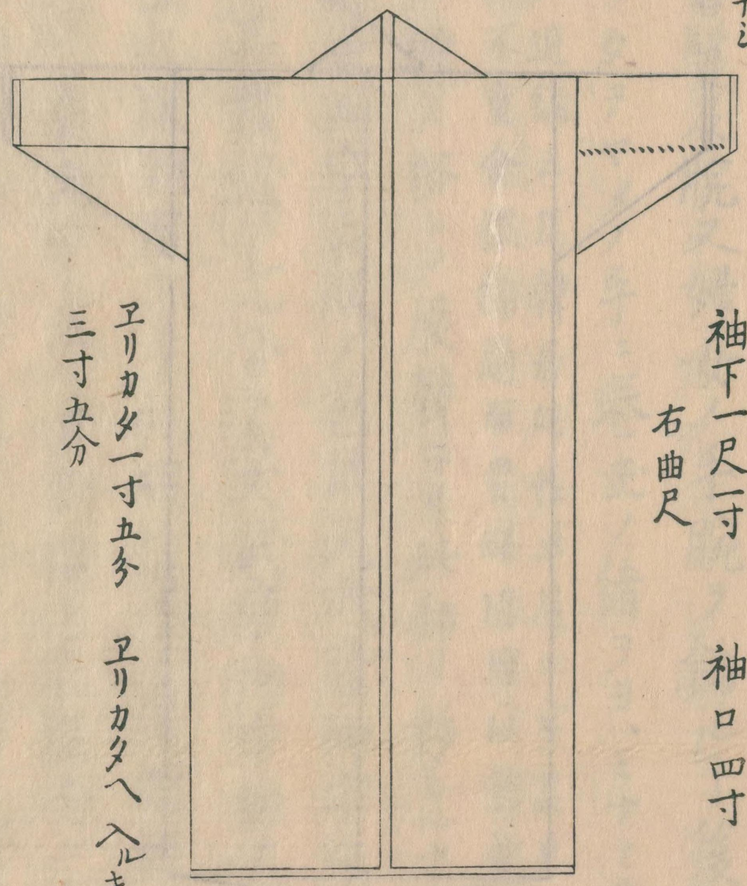


国立国会図書館　タイトル『衝口発』 請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

魏志及後漢書ホ皆云倭人其男子衣以横幅但結
束相連畧無縫綴モノ噫妄ニアラス後世千早ニ褌
裡ノ字ヲ用ユ千早ヲ着タル肖ノ体タスキヲカケタ
ル如キ故ニ假リ用ルナラム後世黄衣上等ニ加レハ袖ヲ
カケテタスキノ如シ千早振神代伝モ此事也今俗
ニ用下帯ハ即千早ノ遺製トニユ
今ノ巫女舞衣及(ビ)千早伝モノアリ舞衣ハ内侍所ノ
刀自モ着ス此即古ノ名ノアコメ也アコメハ至テ卑賤
ノ者モ服ス内膳司ノ仕女ナトモ着用スケ宗藤
朝臣ノ記ニミエタリ古民間ノ婦女ノ盛服ナリ

俗ニ此ヲ千早伝ハ大ナル誤ナリ又今ノ巫女ノ右ノ
舞衣ノ上ニ着メアコメ伝モノハ背子ノ異制也
應神帝御宇縫女二人貢セシヨリ始君臣ニ韓衣
ヲ着タリシカレ𪜈庶人ニ至リテハ裸形ナリシトソ
日本支尺云神帝朝百済貢縫衣二女曰真毛津
始習縫補　君臣之間總着韓衣庶人皆裸形但依
百済人貢雖有韓衣并来帛之類時収禁中府庫内
蔵是也總着中衣蔽其前後○支云蔑神以　百済
人参来始衣裳也河内國石河郡山中古塚ニ殉死ニカユルノ
土物一枚ヲ堀出ス其体左衽挟袖左ノ如シ天智
朝已前ノ物タル察メ知ヘシ

此ヲ服スレハ右墳物ノ形ノ如シ



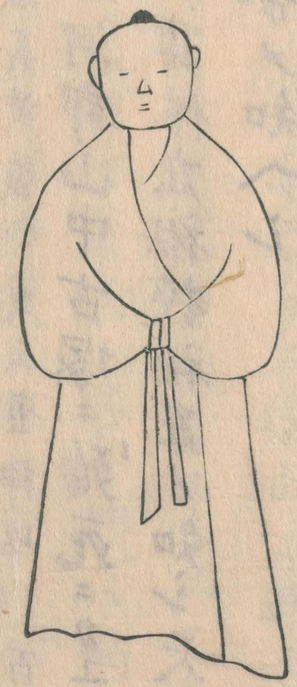
前

蝦夷ヨリ及ヲクビナシ

長三尺七寸許　肩行一尺六寸
袖下一尺一寸　袖口四寸
右曲尺

ヨリカタ一寸五分　ヨリカタヘ入ルキレ三寸五分

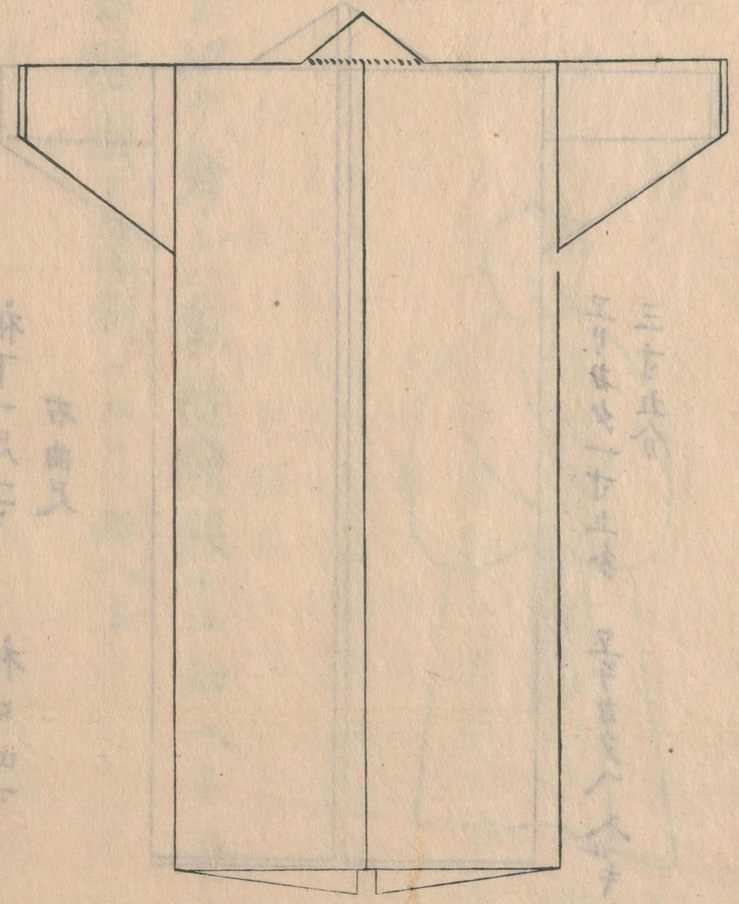
此墳物ヲ以テ考レハ裁縫韓服ナル知ヘシ今ノ蝦夷服即韓制ノ遺制ナル知ヘシ



国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

上古男女首飾アリ日本紀ニ以八坂瓊之五百箇
御統纏其髻鬘及腕又婦女ノ手腕ヲ飾ルノ後々
ニテモ見タリタヲヤメノ手ニ巻玉ノ緒ヨヨハニナト歌
ニモアリ東國通鑑云馬韓居処作草屋土室其戸向
上俗不重金銀錦罽而貴珠珠用以飾髮垂
耳其男子衣
帛袍履草蹻韓ノ俗ニメ厄韓ヨリ此邦ニ移レルナリ
日本紀孝徳帝御宇衣服ノ色目天武帝御宇始テ制
ノフニユレヒ其裁縫ハミルヘカラス文武帝御宇始テ制
衣冠司ヲ置礼服朝服アリ礼服ハ漢ノ遺制朝服
李唐ノ制ニメ養老中ニ至リ其制備リ衣服令ニ委
シ朝廷ハ貴賤トナク左社ヲ改ラレシカヒ庶民猶尤

後



国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

祖ナリシヲ舎人親王知太政官事ノ時右祖ニ改メラレテ續日本紀ニハ正タリ當時ノ庶人ノ服ハ狩韓服トニ正タリ

按位袍缺腋古ヘ縫腋ハ後也缺腋ハ隋ノ襖子ノ裁縫ニメ李唐此ヲ用テ位袍トス綾緞布帛ト染采長短ヲ以貴賤ヲ分ツノミ裁縫天子ヨリ庶人ニ達ス本邦始此ヲ用ユ後世内宴ノ日天子猶缺腋ヲ着御シ玉フ一證トスヘシ私ノ小忌淨衣狩衣褐衣白丁退紅ノ類童直衣細長モ皆襖子ノ製也但綾緞布帛染采ノ差別アルノミ○日本紀畧曰

弘仁九年三月有詔天下儀式男女衣服皆依唐法此文ヨレハ韓制ノ服狩ノコレリトニユ○唐太宗衣服ニ夏冬ヲ別テリ本邦コレニ依テ夏冬ヲ分ツコトハ蕨和中ニ始ルカ

祭服古昔韓服ナルヲ察メ知ヘシ大宝以来唐制ニヨリテ大祭礼服ヲ用弘仁中大小諸神祭及季冬奉幣諸陵帛衣ト格改リテ復韓制ニ本ケリ（韓帛衣ヲ用ユ）ト同ク襪トセサルノミ後シカレ𪜈諸陵ヲ神祭ト（文ニ見ユ）世ニヘサレリ（年中行事秘抄云天安二年十二月限定十陵四墓年終献荷前幣使分不拠念誦小浴可宜云々雖似神事頗渉不浄仍不行他神事）冠ニ日蔭及心葉ヲ着此

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

時古ニ復スルヿトニ立

喪葬

本邦上古喪制ナシ固ヨリ服制モナシ大寶ノ制令ニ始ルナラム然ル大宝令ニヨルヿ必セリ然レモ喪ア老制令ノ日固ヨリ傳ラサレハ其制考ヘカラス養ル者ヲ穢トスルヿヲキカス

後世死ヲ以穢アリトス埋葬ノ事モ皆穢トス上古ハシカラス墓ヲ以祠トメ別ニ祠ヲ立ルヿナシ花巖ニ年々幡歌舞ヲ以祭リ三諸山後世ニ至リテモ山ヲ以社トシ又神体トスルト俗ニモ覚ヘタリ三諸山ハ即墓也其祭祀皆墓ニ供メ穢トスルヿナシ歴世皆此ノ如シ諸陵雑事著ニ考テモ知ヘシ故ニ中古猶上古ノ形ヲ存メ祭礼千早ヲ服シ葬礼又千早ヲ著スヿ此ニテモ其一端ヲミルヘシ○山陵ノ制上古皆山ヲ用中古多ク石窟ヲ用ユ南面華表ヲ立○諸臣巳下ノ墓多ク丘陵ニヨリテ制ス前面（多ク八南面）華表ヲ立後世祠ヲ建ル前面華表ヲ建ハ皆墓ノ制也○死ヲ以穢トシ喪アル人ヲ穢トシ墓ヲ穢トスルヿ家ノ説也真言宗牌位ヲモ澄空海ヨリ始ルナラム佛家ノ説也真言宗牌位ヲモ穢物トメ佛像ト同所ニ置ズ墓ヲ穢トメ則其人

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ　ガラス使用

ノ手澤ノ物ヲ埋テ別ニ墓ヲ立清墓（キヨハカ）ト称ス天台真言共ニ祈禱ノ處ニ服者ヲノ忌テ遠ク

祭祀

上古祠ヲ立ズ其祭ルヿ墓斬柩前ニ於テス爰ヲ以伊邪冊尊ノ陵前ニ幡歌舞ヲ以祭リ天照大神梭ヲ以身ヲ傷崩シ玉石窟（陵也）ノ前ニ於テ天鈿女茅纏ノ矟ヲ持テ俳優ヲナス此亦辰韓ヨリ傳ル巫ヲメ神ヲ祭ラシムル古俗ナリ允恭帝四十二年正月帝崩新羅王聞天皇既崩驚愁貢上調舩八十艘及種々樂人八十是泊對馬而大哭到到筑紫亦大哭泊于難波津則皆素服捧御調且張種々樂器自難波至于京或哭泣或歌舞遂參會於殯宮也新羅ニ於テモ古俗ノ傳ル此ノ如シ此ノ外ニ古代祭祀ノ法ナシ

日本紀巻第二云高皇産霊尊因敕曰吾則起樹天津神籬及天津磐境當為吾孫奉齋汝天兒屋命天太玉命宜持天津神籬降於葦原中國亦為吾孫奉齋焉乃使二神陪從天忍穂耳尊以降之是時天照太神手持寶鏡授天忍穂耳尊而祝之曰吾兒視此寶鏡當猶視吾可與同牀共殿以為齋鏡復敕天兒屋命太玉命惟爾二神亦同侍殿内善為防護○神

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

ヒモロキ

イハサカ

離ハ後世ノ神祠也何ニテモ其人ノ体トメ祭ル主ヲ蔵ル物也此ヲ比毛呂岐ト訓スルハ元新羅ノ辞ニメソレヲ假テ用ルモノニ殯斂葬音比毛呂岐也倭側ヲ縣主ト書カヘテアカタヌシ伝カ如シタトハ鏡ヲ鋳テ此ヲ其人ノ体トシ常ニ殯ニ侍スル如ク供奉スルヨリ假リ用タル辞也天日槍カ携来然神籬モ日槍カ父祖ノ主ナルヿ知ヘシ○磐境ハ墓ヲ云也其意ハ屍ヲ理葬シタルハ再ヒカヘリ来ラサルヿ磐石ノ相フサカリテ往来ノ境ヲ隔テタルカ如キヨリ磐境ノ字ヲ假リ用テイハサカト訓ス磐境ノ字ノ音即彼安加ナレハ又終ニ墓ノ字ノ訓

トナレリ磐戸伝モ同意ナリ此説ヲ以テ右ノ日本紀ノ文ヲミレハヨクスムヿヿ天照太神崩御ノ後御形ノ鏡ヲ鋳テ神籬ヲ設テ同殿ニ祭リ奉リ御陵ニ其祭ヲ奉ルヿヲ記ス也

○天照太神御陵日本紀以下ノ書ニミエス按ニ當時天照太神皇居大和國高市郡ニアルヿ日本紀ニ依テ知ヘシ然レハ其崩御ノ後葬奉ル他國ニアラサルヿ知ヘシ和州各區ヲ記シタルモノニ天香山ノ下ニ天香山或ハ天香來山天香薫山天香久山天隠山ナト書リ香山香久山香來山ハ所出多シ香薫山隠山ハ所出慥ニ覚ヘ

侍ラス然レ𪜈其出所アリテ記スモノナラム夫天香山ハ
高メ天ノ香来(カクル)伝ヨリ名ル伝固ヨリ論スルニ足ラス天隠
山ト書ニヨレハ隠(カクル)山ニテ天ノ香(カグ)山ト畧シ文字モ障ナキ
字ニカヘシモノナラム天ノカグノ山ナレハ天照太神ノ御陵
タルヿ知ヘシ続古今和歌集ニ天クダル神ノカコ山今シモソ
君カタメニトミルソカシコキ為家々此歌モ思ヒ合スヘ
シ上古事アレハ天香山ニ祈ル爰ヲ以神武紀ニ此土ヲ
以祭罳ヲ製シ崇神紀埴安彦妻吾田此山ノ土ヲ
以倭國ノ物実トス此皆天神ニ祈リ奉ル意也又古事
記ニトスルニ天香山ノ婆々迦ノ木ヲトル此モ天照太神

ニ祈リ奉ル意ヲ以他所ノ木ヲ用ス香山ノ木ヲ用ルヿナリ
墓古語ハアカナレハ婆々迦ノ木ハ墓ノ木ニテ天照太神
御墓ノ木伝ヿ之固ヨリ朱櫻ニカキルヘカラス延喜式年
婆波加木皮仰大和國有
封社令採進其処可考
中御ト料

拍手

拍手メ拜スル上古ノ俗也持統帝即位日狭公卿百寮
羅列迎拜拍手ス朝賀節會等ニモ毎ヿ拍手メ拜セシ
ヿ也後世節會ノ日蕃客アレハ拍手ヲ止メラレシヿ也
若韓俗ナル故ニ止メラルヽカ考ヘシ後ニハ神拜ニノミ
残テ今ノ人ハ往ヽ神ヲ拜スルノ礼ト心得タリ魏志倭
人傳云

見大人所敬但搏手以当跪拜○集韻
云今倭人拜以両手相撃蓋古之遺法

和歌

夫和歌ハ素戔雄尊ノ八雲ノ詠ヲ始トス御孫瓊々杵尊御曽孫彦火々出見尊皆ヨク詠シ玉ヘリ爰ヲ以神代ヨリ傳ル道伝其御製皆神代巻ニ載ラレタリ神武帝ヨリ仲哀帝比マテハ三十一字ノ歌至テスクナシ應神帝ノ御宇百濟ノ王仁来リ難波津ノ歌ヲヨメリ此歌三十一字ノ口調ハ雲已下ノ神詠ニ類ス此ヨリ相継テ三十一字ノミナラス日本紀ニモ歌多クアリサレハ王仁ノ難波津ノ歌ハ実ニ神代已来ノ再唱ト云ヘシ按ニハ雲ノ詠素戔雄尊ノ御詞ナレハ三十一字ニ屈ニ辰韓ノ辞ナルヿ知ヘシ又ハ雲立出雲モ素戔雄尊ノ名ケラレシナラム王仁難波津ノ歌モ此ニ同ノ難波津ニ伝ハ何ニモセヨ此邦ノ地名也咲ヤ此花已下ハ皆百濟ノ詞ナルヿ知ヘシサレハ文字ノ多寡ニヨラス歌ハ韓ノ古俗ナルヿ明ナリ天智帝モ歌ヲアソハシタレ𪜈此御宇ヨリ唐風ヲ以テ韓俗ヲシリゾケ玉ヒ大友皇子ヨリ詩賦奥オコリ詩歌並ヒ行レタリサレハ光孝帝ノ比マテハ歌ハ詩ホトニハ好マサリシトミエタリ禁中御抄ニ和歌ハ自光孝天皇未絶雖為諺从糸者非語我習俗也ト神代ヨリノ道

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

ト称スルヿナレヒ此御文ニテ異論ニ及ハス神代已来ノ
習俗ニテ韓俗ノ諺語也然ルニ後漢已来三韓ハ西土
ヲ学ヒ此俗絶タルト見エ

詩賦

日本紀ニ詩賦ノ興大津皇子ニ始ルトアレヒ実ハ大友
皇子ヲ始トス続日本紀以下毎ニ詩ヲ賦セシムルヿ
有テ世々其人ニ乏カラス踏歌ハ持統帝ノ朝漢人ノ
奉レルヲ始トス其後此國ニテ世々踏歌ヲナス其辞ハ
七言四句或ハ七言八句ノ詩ヲ用ヒ訓ヲ用ス音ヲ以
歌ヒタリ延暦中淪臺青海ノ人ノ来レルヲ樂ニ作リタリ
其詠六言四句二首五言四句一首コレヲ歌フモ音
読ニテ訓ヲカラス唐風ヲ以テ韓ノ遺俗ヲ変シ音読
ニテモ其儀通スル様ニ成タリワカムトウリトイヘハ王家毎ニ
等倫トニテモ知ヘシ和歌ハ神代ヨリノ道トアレトモ
続日本紀已下ノ史ニ載スル所絶ニ数首ノミ花晨月
夕ノ宸遊詩ヲ賦スルヿニテ天暦延喜ノ比ニテモ其餘
風盛ナリシニ踏歌モ光孝帝ノ比ヨリ歌ヲ用ヒ内宴
ナトモアトカタモナクナレリ

國史

日本紀ヲ読ハ先此國ノ事ハ馬辰ノ二韓ヨリヒラケ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

神代紀ト異邦書

傍弁韓ノコトモ相ヽ千ハルト心得ソレヲ心ニ怱レス読サレハ解シカタシ古来韓ヨリ事起リタルコヲ掩ヒタラス此國キリニテ何事モ出来タルト思フ故韓ノ言語ヲ和訓トス様ゝニ説ヲ立終ニ其意ヲ得ルコトナシ其上舊事記古事記ハ相遠ノ支モアルヘケレ𠮟日本紀ハ舎人親王ノ精撰故首尾直筆ニメ一字ノ増減モナラヌヤウニ覚タルハ大ナルヒカコト也○神代紀ニ巻異邦ノ書ヲ取集メ雑ニ佛見ヲ以テ結構ス閑巻第一義ノ古天地未割ゑる准南子ノ文ヲ用ヒ尚書考ノ日神五色明照四方ヲ用テ天照太神ヲ

日神ト称シ光華明彩照徹六合ト書又春秋内事ノ日者陽徳之母伝ヨリ女体ノ天照太神ヲ日神ト称シ春秋感感符ニ人主与日月同明四海合信故父天母地兄日婦月伝ヨリ素戔雄尊ノ事ニアテ其外盤古之君身死後毛髪為草木盤古死後骨節為山林盤古吹為雷電盤古死後左目為日右目為月此等ノ語ヲ以テ文ヲツヽリ海宮所ハ幽明録海中有金臺山高百丈結構巧厳窮盡神工大志経大意初入海中至金銀城次至黄金城次至水晶城次至瑠璃城龍王各與明珠此等ヲ

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ　ガラス使用

取集メ結構シタル者ト見エ○神武紀ニ至リ開
闢ヨリ一百七十九万二千四百七十餘歳ト書テ神
代及上古ノ間ノ年歳ヲ長クス此等數家ニ說ア
ル事トイヘドコレラヘ事ナリ一說ニ後人ノ加ヘ
タルモノトイヘド古本ノ日本紀ニモ皆コレアリ古
事記ノ序ニ天武帝ノ詔ヲ挙テ云朕聞諸家之所
齎帝紀及本辞既違正實多加虚僞當今之時不改
其失未経幾年其旨欲滅又姓氏録序ニ使前姓後
姓文字斯同蕃俗和俗氏族相疑萬方庶氏陳高貴
之枝葉三韓蕃賓称日本之神胤時移人易罕ニ知而

言天武帝ノ詔此ノ如クニ応神帝ノ所出ヲカクシ大
友皇子ノ即位ヲ載ス神代紀ニ素戔雄尊ハ辰韓ヨリ
渡リ玉フ故ニ新羅ヲ父母ノ根ノ國伝ソレヲ素戔雄尊
此國ノ御人ナルヲ此邦ヨリ逐ヤラヒテ新羅ノ蘊志摩
利ノ地ニ在伝ヘリ然レハ三韓蕃賓称日本之神胤ト
此方ヨリ掩ヒカクスニ事ヲコリタルナリ年代ヲモ立カヘ存
スヘキヲモ削リ文字ヲ種々ニ書改メタルヲ直筆トハ云
ヘカラス武内宿祢ノ三百十餘歳モ信用シカタシ此等ノ
事ハ書ヲヨム人ノ眼高カラサレハ共ニ談シカタク凝人ノ前ニ
爰ヲトクカ如シ

蘇志摩利
今謂牛頭
牛ノ頭ノ
訛ル之
訛ル

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

日本紀

水鏡

鎌足公傳

孝徳
大化元 乙巳
二 丙午
三 丁未
四 戊申
五 己酉
白雉元 庚戌
二 辛亥
三 子壬
四 癸丑

白雉元 五
七
六
五
四
三
二
白鳳元 一

白鳳元 二
裏書引皇代記作白雉者蓋拠日本紀矣
三
四

齊明
五 甲寅
元 乙卯
二 丙辰
三 丁巳
四 戊午
五 己未
六 庚申
元 辛酉
二 癸亥

続日本紀神亀元年十月詔報曰白鳳以来朱雀以前年代玄遠云云

光圀卿云按水鏡及諸書天武朝朱鳥以前有朱雀白鳳之号而日本紀無之今此云白鳳以来朱雀以前則有此二号明矣舎人不書之未詳其故

白鳳元 六
二 七
三 八
四 九
五 十
六 十一
七 十二
八 十三
九 十四
十 十五
十一 十六
十二 十七
十三 十八
十四 十九
十五 二十

国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

大友天皇水鏡云白鳳十一年正月為丈
政大臣年廿五十月
立為皇太子十二月
五日即位○年中行
事秘抄云天智天皇
十年正月五日大友
皇子始為大政大臣
天皇崩後為皇子帝
位云々○武智麻呂傳
同日本紀以壬申年
為元年

| | | |

十三 癸未
十三 甲申
十四 乙酉
朱鳥元 丙戌 丙九月晉崩
元 丁亥
二 戊子
三 己丑
四 庚寅 即位
五 辛卯
六 壬辰

大化元 乙巳
二 丙午
三 丁未
四 即位

七 癸巳
八 甲午
九 乙未
十 丙申
元 丁酉
二 戊戌
三 己亥
四 庚子
大寶元 辛丑

元 八月一日 即位

大長元
二
三
四
大寶元

延曆中鮮文

制度

開闢ノ後上ハ素戔雄尊下ハ大己貴命ヨリ事始リタレハ事物言語皆韓俗也○神武帝勃興シ玉テ後モ猶右ノ風俗ノ〻ミテ○應神帝ノ御宇百濟ヨリ阿直岐王仁ナト來リシヨリ文字モ傳リ始テ西土ニ通シ欽明帝御宇百濟ヨリ佛教傳リ○推古帝ノ御時ニ上宮太子佛ヲタヨリメ十七條憲法ヲ作リ玉ヒ始テ冠位十二階ヲ定メ玉ヘリ上下衣服モ備リ裸形モ〻ヌカレタリ然レ𪜈其文物皆韓俗ノ餘風ナル故ニ○孝徳帝御宇始テ古風ヲステ、律令ヲ定ルノ端ヒラケテコヒヲ日本紀ニモ神道ヲ軽ズト書リ○

天智帝御宇終ニ唐ノ制度文物ヲ用テ七百餘年ノ韓風ヲシリソケ其典礼皆後世ニ法トルベキ基ヲ開カセ玉ヘリサレハ萬世ニテモ日本中興ノ王ト稱シ奉ル大友皇子ヨク其御志ヲツカセ玉ヒシニ壬申ノ乱ニヨリテ天命遂サセ玉ハス天武持統二帝御宇ニハ天智帝ノ叡慮モシカ〳〵ト行レサリシニ○文武帝ノ英断ヲ以大極殿ヲ立テ朝賀等ノ礼ヲ定メ釋奠ヲ始メ律令ヲ修シ玉ヲ實ニ天智帝ノ御志ヲ継玉ト云ヘシ其後聖武帝ノ御宇ヨリ政治弛リテ光仁帝御宇始テ復古ノ跡ニ向ヒ○桓武帝再ヒ季唐ノ制ニモトツキ飾ルニ漢魏ノ文ヲ以テシ都城宮城ノ結構帝宅ノ壯麗四夷ヲ鎮伏セシメ玉ヘリ

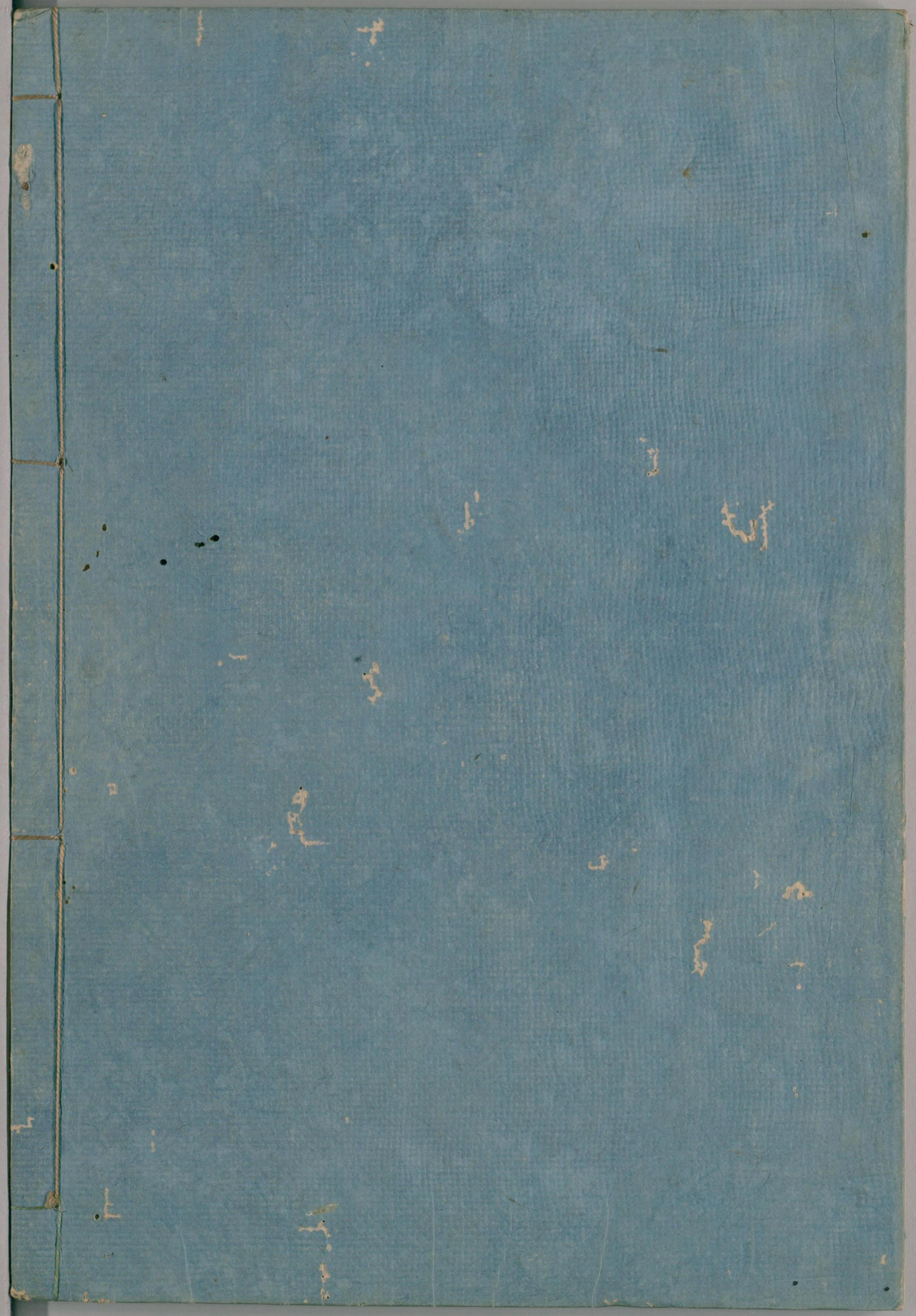
国立国会図書館　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ
ガラス使用

此時ニ當リ天智文武二帝ノ御志全備スト云ヘシ其後外ニ
ハ浮屠内ニハ陰陽巫祝正路ヲ塞キ弘仁已後又桓武帝ノ
古制ヲ変改シ玉シヨリ唐ニアラス韓ニアラス又竺ニモアラス一
種ノ典礼ヲコリ佛法ト神道トヲ相混シ儒士ハコレカ奴隷トナリテ
其幣神國ノ名ヲ主張シ貴賤トナク佛ニ供奉スルヿ惟日不
足メ中葉ニ及ヘリ夫レ人ハ一日モ昔ヲ忘ルヘカラス西土ノ書
ヲヨシ華夷ヲ分別シ聖賢ノ道ヲシルハ全ク天智文武
二帝ノ賜モノ也
天明元年辛丑七月

明治三十五年二月

秋村生北鄙

當時已有覧誠敬之意矣二十年八月再読
庚生



国立国会図書館　　タイトル『衝口発』　請求記号 210.3-To339s-Ⅲ

ガラス使用